



青少年リスタートプレイス

東京都教育相談センターでは、「青少年リスタートプレイス」を設置し、高等学校を中途退学した方、高校での就学経験のない方、また、進路選択を控えながらも中学校で不登校の状態にある方やその保護者等を支援しています。

「つどい」

「つどい」とは、アドバイザーからの助言を交え、高等学校を中途退学した方、高等学校での就学経験のない方、また、進路選択を控えながらも中学校で不登校の状態にある方やその保護者の方等が、心と身体のこと、就学に係る制度のこと、将来のこと等について学び、考え、語り合う場です。今年度の「つどい」の開催日程は次のとおりです。

- 第1回 「行けない心、行かない気持ち」 5月28日(土)
(第1回は終了しました。)
- 第2回 「子供と家族のメンタルヘルス」 7月16日(土)
- 第3回 「我が家の不登校体験記」体験談 9月17日(土)
- 第4回 「私が学校復帰できたのは…」体験談 11月26日(土)
- 第5回 「これからの学校復帰に向けた手だて」 1月28日(土)

※いずれも会場は東京都教職員研修センターで午後2時から午後4時までです。
◎参加希望の場合は、電話又はファクシミリ(用紙はホームページ上にあります)にてお申し込みください。

参加募集中!

「進路相談会」

進路についての情報や助言を得にくい状況にある方やその保護者の皆さんに、具体的な進路情報の提供と、個別の相談に応じた助言をいたします。今年度の「進路相談会」の日程は次のとおりです。会場は、東京都教職員研修センター(水道橋)と東京都多摩教育センター(立川)です。

- 第1回 7月10日(日) 立川
- 第2回 7月24日(日) 水道橋
- 第3回 8月 7日(日) 水道橋
- 第4回 11月 5日(土) 立川
- 第5回 11月19日(土) 水道橋
- 第6回 1月21日(土) 水道橋

※ 1月21日は個別相談のみ開催です。
◎お申し込み方法等、詳しくは、ホームページをご覧ください。

参加募集中!

外国人児童・生徒相談

外国人児童・学生咨询 Counseling and Consultation Services for Foreign school children 외국인 아동·학생 상담

都内に在住、在勤、在学する子供にかかわる教育相談を外国語で実施しています。

主な内容

- ☆日本の学校制度に関すること
- ☆就学や都立高校への入学に関すること
- ☆学校での生活適応に関すること

対象言語

中国語、英語、韓国・朝鮮語

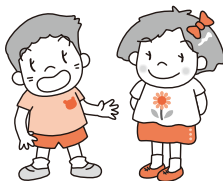
受付時間

外国語による相談を毎週金曜日の午後1時から午後4時まで行っています。

- 電話相談：03-5800-8008
- 来所相談：電話で予約をお申し込みください。

その他、日本語による相談をお受けします。

- 電話相談
 - ・平 日：午前9時から午後9時まで
 - ・土日祝日：午前9時から午後5時まで
- 来所相談
 - ・平 日：午前9時から午後5時まで
 電話で予約をお申し込みください。



教職員等からの相談

子供(幼児・児童・生徒)の理解や対応方法について、一人で悩みを抱えていませんか?お気軽に、電話相談、メール相談をご活用ください。当センターに来所されて、相談することもできます。なお、都内公立学校には所員が訪問してご相談をうかがうこともできます。

☎ 03-5800-8008

- 電話相談
 - ・平 日：午前9時から午後9時まで
 - ・土日祝日：午前9時から午後5時まで
- メール相談：当センターホームページの「メール相談」のフォームから入ってください。



広報

すこやかさん

東京都教育相談センター

<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp/>

〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3
TEL 03-5800-8545(代表) FAX 03-5800-8402



第29号

平成23年7月発行

複雑な背景をもつ子供を理解し、かかわるには

東京都教育相談センター 所長 奥村 誠一

■ はじめに

先般発生した東日本大震災では、地震及び大津波により、東北地方を中心に、多くの方々が死傷しました。また、福島第一原子力発電所で大規模な事故等、甚大な被害が生じています。

この紙面を借りて、この大震災で亡くなられた方々の御冥福を心からお祈りいたします。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

■ 震災後の子供たちと心のケア

東京都においても、被災地から様々な理由により転入してくる子供がいる場合はもとより、直接、被害に遭ってなくても、震災被害の報道に接したり、余震等があったりすることにより、不安を強く抱き、心理的に不安定になる子供もいます。

私たちはこのことを十分に認識し、子供の心のケアについて、日ごろから子供に接している教員が子供への理解を深め、適切な対応をしていく必要があります。

■ 複雑な背景をもつ子供と発するサイン

教育相談センターの来所相談では、子供からの様々な相談があります。相談を通して感じることは、思春期の混乱、家庭環境・生活環境、本人の資質や能力、友人関係など様々な要因が複雑に絡み合っていることです。

これらの子供たちが抱える課題を解決するのは容易なことではないかもしれませんが、しかしながら、子供たちの課題発生を未然に防いだり、初期段階で対応したりするためには、学校において子供の発しているサインを的確にとらえて、組織的に対応することが大切であることは言うまでもありません。

■ 教員のかかわり

ここで、悩みを抱えながらも、大きな問題を起こさずにいる子供に目を転じたとき、教員は意識的にあるいは無意識的に何らかの働きかけをしていることが考えられます。また、実際に相談を受けた事例の中には、教員のささいなかかわりによって勇気付けられたり支えられたりした子供がたくさんいました。

■ 子供の理解とかかわりのタイミング

多様化した子供たちに教員がよりよい対応をするためには、子供たちをどのように理解すればよいか、どのようなタイミングでどのようなかかわりをしていけばよいかを探る必要があります。

そこで、私たちは、教員が普段から何気なくかかわっていることの中にこそ、実は未然防止のためのヒントが隠されているのではないかと考え、平成21・22年度に「高等学校における生徒理解と対応に関する研究」を実施しました。

この研究は、日々の学校生活で気になる生徒がいたとき、教員はどのようなかかわりをしているのか検証し、そこから、不登校や命にかかわる事件・事故等を未然に防ぐための、日常的なかかわりはいかにあったらよいかを明らかにしています。その成果は、高等学校だけに限らず、小・中学校の教員にも参考になるようなまとめとなりました。

今号では、この研究から見えてきた、子供とかかわるときの「温かい心」と「冷静な判断」について特集します。

相談のご案内

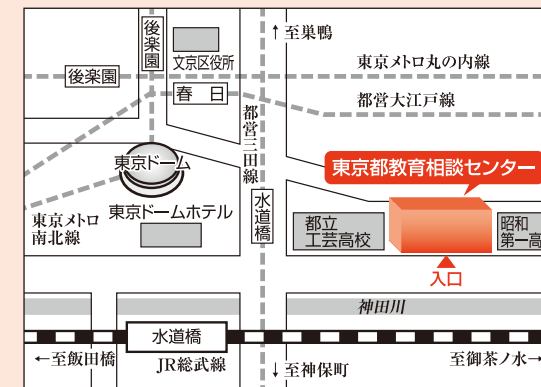
- 電話相談／平 日 午前9時から午後9時まで
土日祝 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)
※上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールによる対応をしています。
メールはホームページから入れます。
(ホームページ) <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp/>

- いじめ相談ホットライン / 24時間対応 03(5800)8288

- 来所相談／平 日 午前9時から午後5時まで
※電話でお申し込みください。
※立川出張相談室(立川市錦町6-3-1)においても応じています。

- 所在地／〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3

受付電話番号 03-5800-8008



「温かい心」と「冷静な判断」 児童・生徒とかかわるときの両輪

<事例>

いつも一緒にいる数人の男子グループ。休み時間にはふざけて、じゃれ合っていることが多い。時には廊下を走り回って注意されることもある。

子供たちが、悩みを抱えながらも、大きな問題を起こさずに済む背景には、教員の対応が大きくかかわっていると考えられます。そこで「温かい心」と「冷静な判断」を基盤とした教員の日常的な子供の見守り方を紹介します。

「温かい心」とは

はじめから子供を否定的に見るのではなく、子供の良いところに目を向けながら、子供の可能性を信じる気持ち

「冷静な判断」とは

肯定にしろ否定にしろ感情的になり入れ込み過ぎず、少し距離を置いて客観的にとらえようとする事

<冷静な判断をするために ちょっと考えてみよう>

- 特定の子供の顔色をうかがっていないか。
- グループ以外の子供に対しては排他的ではないか。
- 指導に素直に従わないことはないか。

どちらとも言えない
と思ったら

<もう少し考えてみよう>

- 特定の子供がいつもふざけの対象になっていないか。
- クラスの中に「表情の暗い子供が増えた」と言われたことがないか。
- 教科によっては、クラスが何となく落ち着かないことはないか。

心配
と判断したら

大丈夫
と判断したら

ルールはルールとして教えながら、互いに支え合える仲間となれるように、温かい心で見守っていきましょう。

大丈夫
と判断したら

グループの子供たちの元気の良さ、明るさを活かして活躍できる場面を設定するなどして励ましていきましょう。
他の子供たち一人一人の個性も大切に、温かい心で見守りましょう。

<直ちに行動を起こしましょう>

- グループの子供たち一人一人に話を聴いてみましょう。
- グループ以外の子供たちにも話を聴き、協力を求めましょう。
- 他の教員からも情報を集め、様々な場面での子供たちの様子を確認しましょう。
- 担任が一人で抱え込まず、他の教員とチームを組み、役割を決めてかかわりましょう。
- 保護者に家での様子や気になることがないかを聴いてみましょう。

常に「温かい心」をもちつつも「冷静な判断」をしていくことが子供を見守る際には必要です。